第３回小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会

日　　時　　平成３０年１０月２６日（金）午後６時３０分～午後８時１５分
場　　所　　本庁舎３階　第一会議室
出席委員　　８人
　委員長　　渡　邊　嘉二郎　委員
　副委員長　　小　川　順　弘　委員
　委　員　　松　本　敏　朗　委員　　鴨　下　明　子　委員
　　橋　田　壌　志　委員　　沼　崎　明　大　委員
　　小　宮　貴　大　委員　　天　野　建　司　委員

欠席委員　　１人
　委　員　　本　間　紀　行　委員

市説明員
広報秘書課長　　天　野　文　隆

事務局職員
企画政策課長　　梅　原　啓太郎
企画政策課企画政策係長　　古　賀　　誠
企画政策課企画政策係主任　　金　原　真紀子

傍 聴 者　　０人

（午後６時３０分開会）

◎渡邊委員長　定刻になりましたので、これから第３回小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会を始めます。

本日の議題は、お手元の資料にありますように、シティプロモーションについて、小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会設置要綱の一部改正について、「小金井市まち・ひと・しごと総合戦略」施策の効果検証について（評価シート１、評価シート２１のみ）、今後の予定、次回の開催日となっております。

この議論のために必要な資料が、資料１、まち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会設置要綱、２ページになっています。それから、資料２－１と２－２という評価シート。それから、資料３というのが、武蔵野市、三鷹市と一体となった観光地域づくりについてという資料、２ページ。今日、配付していただいた資料４ということで、「小金井市の公園づくりを一緒に考えて見ませんか！？」という資料。それから、資料５ということで、今後の予定。資料６が、

小金井市シティプロモーション基本方針（たたき台・修正版）というものです。その後に、松本委員提出の資料になっております。よろしゅうございますでしょうか。資料、ありますか。ありがとうございます。

順番が、シティプロモーションについてというのが最初になっていますけれども、今日の議論の大半がシティプロモーションの議論になろうかと思うんです。２と３は比較的形式的なものですから、簡単に終わると思っているんですけれども、２と３について最初にやらせていただいて、それが終わったら、じっくり１のシティプロモーションについて議論したいというふうに思いますが、よろしゅうございますか。

（「はい」の声あり）

◎渡邊委員長　それでは、そうさせていただきたいと思います。

ではまず、小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会設置要綱の一部改正についてを議題とさせていただきたいと思います。

事務局からの説明をお願いします。

◎梅原企画政策課長　前回の委員会で事前に御説明をさせていただいておりましたが、１０月３日に要綱の一部改正を行いましたので、その内容について報告をさせていただきます。

資料１を御覧いただきたいと思います。改正を行った箇所に下線を引いております。改正前の要綱には、小金井グランドデザインの策定などの表現がございましたが、小金井グランドデザインという新たな計画は策定しないこととしておりますので、この部分につきましては削除をし、本委員会では、３０年先から４０年先を意識した本市のあるべき姿や長期ビジョン等を御検討いただき、新たな基本構想・基本計画につなげてまいりたいことから、第２条第３号について、「総合戦略に関わる計画等に資すること」と改正しているものでございます。

◎渡邊委員長　設置要綱の説明、グランドデザインというのをなくしたという、前回の話もあったと思うので、何か御質問ございますか、この件。よろしゅうございますか。

（「はい」の声あり）

◎渡邊委員長　それでは、これ自体は了とするというか、オーケーというふうにさせていただきます。

◎渡邊委員長　次が、「小金井市まち・ひと・しごと総合戦略」施策の効果検証についてを議題としたいと思います。

先ほど確認させていただいた資料２－１と２－２をもとに、事務局から説明をお願いします。

◎古賀企画政策係長　前回までの委員会において、委員まとめのコメントの確認が終了していないシートが２つございます。資料２を御覧ください。対象の評価シートは、１番及び２１番となっておりますので、よろしくお願いします。

また、前回の委員会の中で松本委員から御質問いただいた件につきまして、この場で説明をさせていただきます。資料３を御覧ください。評価シート５、小売業の年間商品販売額におい

て担当課が記載した武蔵野市、三鷹市と一体となった観光地域づくりにつきまして、パンフレット等があれば資料をということでしたが、経済課に確認したところ、パンフレットがございませんでしたので、かわりに事業概要について資料を提出させていただきました。詳細につきましては資料を御覧いただきたいと思います。

次に、資料４を御覧ください。これから御議論いただきます評価シート１、資料番号で言いますと資料２－１になりますけれども、こちらに関連して、小川副委員長から公園づくりに関する新たな協議会について御質問をいただきましたので､あわせて説明をさせていただきます。

本市におきましては、「公園づくりを一緒に考えてみませんか！？」ということで、平成３０年９月２１日、１０月１１日、１１月１２日の計３回でワークショップを開催しているところです。現在、市内には２１１か所の公園等が供用されており、そのうち約１００か所余りが開発等による提供公園等です。そのため、地域によって公園等整備状況差が生じており、偏在化による低・未利用公園等の活性や、それにかかる維持・管理が課題となっており、公園等のさらなる適正整備が必要となっております。

このため、本市にふさわしい公園等のコンセプトの検討や低・未利用公園等の課題等を、ワークショップ等を通して整備し、本市における公園等のあり方を構築するため、公園等整備基本方針の策定をしており、その過程の中で配付資料のワークショップを開催しているところです。

今後につきましては、ワークショップでいただいた御意見を庁内検討会で検討し、素案を策定します。その後、パブリックコメントを実施し、平成３１年３月下旬ごろに公園等整備基本方針を決定する予定となっております。

◎渡邊委員長　まず、資料３のほうは、この間出た御質問に対して資料を作ったということです。何かこの件、さらに伺うことはございますか。これは、小平市は入らないんですね。

◎古賀企画政策係長　そうですね。

◎渡邊委員長　小平市を入れてほしかった。

それから、資料４については、評価シート２－１とのかかわりで、公園づくりについてということであります。それを受けて、資料２－１でありますけれども、いろんな意見を総合して、資料２－１の右下の欄で、「市立公園面積を増やしたものの、人口増により、一人当たりの面積が若干下がったのはやむを得ない。今後、この数値を維持しながら、子どもに優しく、市民の憩いの場となるような公園づくりに努めていただきたい」ということで、この委員会としてまとめたいと思いますけれども、いかがでしょうか。よろしゅうございますか。

◎天野委員　今、資料４のところで小川副委員長のほうからの要求ということで、「公園づくりを一緒に考えてみませんか！？」という資料を出しています。部局のほうも、小金井市の公園のあり方というものを今、市民参加で見直ししているんです。小さい公園が幾つもあるような状況の中で、どういうふうに小金井市の公園を、市民に親しまれるような公園のあり方を見直す中で、一概に、これ、指標で掲げてしまっているから致し方ないんですけれども、量から

質へというようなところも小金井市として考えているところなので、我々の見解として、「この数値を維持しながら」というのが、現時点の計画ではそういう指標になっているので、そういう表現もやむを得ないかなとは思っているんですが、部局のほうとすれば、今後、量も大事なんですけれども、質のほうを今、検討しているという状況だけはちょっと発言させていただきます。

◎渡邊委員長　「この数値を維持しながら」というのをとりますか。

◎天野委員　可能であればお願いします。

◎渡邊委員長　より積極的な意味で取り組んでいるということですから。こういう提案がございましたけれども、いかがですか。

じゃ、今の御提案を受けて、「今後、子どもに優しく」というところで、「この数値を維持しながら」という部分を削除ということで、この委員会、決めたいと思いますが、よろしいですか。

（「はい」の声あり）

◎渡邊委員長　ありがとうございました。

次、資料２－２、評価シート番号２１でございます。東京学芸大学と学習支援に関する協働研究についてのもので、いろんな御意見があってオール三角なんですけれども、「計画の見直しは理解できるが、そこに至った原因をより深く突き止め、評価も含めて学習支援について抜本的に見直すことが必要ではないだろうか。連携協力校数については、引き続き増加に向けた努力を続けていただきたい」ということで、「Ｃ」という評価で、結果の説明のところ、２９年度、東京学芸大学の学習支援に関する連携協力は、本町小学校と南中であると。連携校において、放課後学習教室が実施されており、本町小学校では週一回、南中学校では定期考査前に集中して行っている。新たな拠点校は困難であるため、連携校の数は現状維持であるということです。この委員会として、こういうコメントですけれども、よろしいですか。

（「はい」の声あり）

◎渡邊委員長　じゃ、一応、資料２－２の評価シート番号２１番、こういうふうにまとめていただくということにさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

◎渡邊委員長　では、議題の最初に戻りまして、シティプロモーションについてということに入りたいと思います。まず、シティプロモーションについて、今日の資料６でたたき台・修正版等々が出ていますので、まず事務局から説明してください。

◎梅原企画政策課長　本日、前回の委員会でお配りして説明させていただきました小金井市シティプロモーション基本方針のたたき台について、資料６ということで修正版を出させていただいた上で、委員の皆様の御意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

初めに、シティプロモーションの位置づけなどにつきまして少しお話をさせていただきたい

と思います。

まず、本市の市政運営についてでございますけれども、小金井市におきます事業についてはさまざまな計画をもとに行っているところでございますが、それらの計画のもととなっている最上位の計画が、基本構想・基本計画でございます。それから、本委員会で評価いただいております、まち・ひと・しごと創生総合戦略につきましては、将来的には人口減少社会となる平成７２年までの人口動向を意識しまして、国の要請により策定した５年間の計画ということでございます。まち・ひと・しごと創生総合戦略については、第４次基本構想・後期基本計画と整合をとりながら策定しているものでございます。したがいまして、本市の市政運営については、基本構想・基本計画と、まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき実施されているということでございます。

次に、なぜシティプロモーションに取り組むのかについてでございます。基本構想におきましては、市民の幸せ増進のため、「みどりが萌える・子どもが育つ・きずなを結ぶ　小金井市」を将来像としまして、市民が住みやすい、住み続けたいと思い、住んでみたいと思われるまちを目指すこととしており、そのための方法として、市民と協力しながら市を宣伝する、観光大使を活用するなどして、市の魅力を市内外へ積極的に発信するシティプロモーションに取り組みますというふうに位置づけております。

また、まち・ひと・しごと創生総合戦略におきましても、将来的な人口減少や少子高齢化による影響を考えまして、若者や子育て世代に定住を勧め、働く世代、生産年齢人口、１５歳から６４歳の方や、将来を担うゼロ歳から１４歳の子どもたち、これらの増加を目指しているところでございます。

そのための方法としまして、小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより地域の活性化につながるまちということで、まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標１を目指しているところでございます。こちらを目指しましてシティプロモーションを進めていくこととしております。

そして、今後、まち・ひと・しごと創生総合戦略と統合を計画しております平成３３年度からの第５次基本構想・前期基本計画におきましても、シティプロモーションについては重点を置かなければならない事項の一つであるというふうに考えております。このことから、本委員会でシティプロモーションについて議題としてお願いしているものでございますので、よろしくお願いしたいと思います。

◎渡邊委員長　ありがとうございました。シティプロモーションの位置づけというのが、まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標の１、小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまちで、その中の基本的方向で、小金井市の魅力を発信するシティプロモーション推進、これに基づいた議論ということでございます。

シティプロモーションというと、何か市の根幹を議論するという感じですけれども、そうではなくて、市をどうやってプロモートするための情報を発信するかということ。つまり、小金

井市をどうやってＰＲするのかと、その方向性、こういうことを議論していただければと思います。

あと、シティプロモーションを考えるに当たって、現在いろんなアンケートを集計していると思いますけれども、まだ答えが出ていないらしいので、今までのアンケートをベースにしながら議論を進めていただければと、そんなふうに思っています。

私自身もシティプロモーションはよくわからなくて、皆さんのお手元にこの資料、シティプロモーションを成功に導く要素ということで、東海大学文学部広報メディア学科の河井先生の資料をネットで探してプリントしてきました。結構、難解でして、もう少しわかりやすいのはないかというのでいろいろネットで調べたら、「シティプロモーションによる地域づくり―『共感』を都市の力に―」、こういうのがあって、コピーしてこようと思ったんですけれども、トナーがなくなっちゃったものですから、これに非常に具体的に書いてある、これと一緒に読むと非常によくわかるものです。

それで、これをちょっとだけ見ていただくと、シティプロモーションとは何かというところがございまして、１ページ目の左上です。そこの第２段落の２行目から、シティプロモーションとは何かを定義するとあって、シティプロモーションとは、地域を持続的に発展させるために、地域の魅力を創出し、地域内外に効果的に訴求し、訴求するというのはＰＲするということ、それによって、人材、物材、資金、情報などの資金源を地域内で活用可能にしていくことである、こういう定義になっていまして、小金井市の定義もこれからそれほど大きくは外れないと思っています。

この定義のポイントの一つは、地域の魅力を創出するということです。地域の魅力を作るんだということ。もう一つは、それを訴求する、ＰＲして皆さんに伝えていきます、こういうことが書いてあって、僕自身はなるほどなと思ったんです。

いろんな事例が書いてあります。この間、鴨下委員からもネットの使い方等々いろいろあるんじゃないかということもあって、そういうことも結構書いてあって、要するに、会社とか市が一方的に発信するやつというのと、ＳＮＳとかツイッターみたいに個人欄で意見を述べるネットワーク、そういういろんなものもこの中に結構分類されていて、それらをうまく活用しなきゃいけないというようなことも書いてありました。

私一人でお話ししてもしようがないので、皆さんから市のほうに御意見を出していただいていると思うんですけれども、それをもとに委員のほうから御発言いただければと思います。

私のほうで思ったのは、シティプロモーションの定義というのが何かわかりにくいということで、そのためにこんな勉強しちゃったんですけれども、要するに、市の魅力を作ること、市の魅力を発信するということだと理解しています。これにもいろいろ書いてあったんですけれども、市ができることと市ができないことがある、民間の団体ができることと民間の団体ができないことがあると。僕自身の意見としては、市だけがやるんじゃなくて、小金井市には小金井市の魅力を作っている団体がいろいろあると思うんですけれども、そういうところとコラボ

レーションしてやったほうがいいんじゃないかと思うんです。

皆さんの意見を聞く前に、資料６の説明を伺って、その上で聞かないとだめですね。資料６の説明をお願いいたします。

◎天野広報秘書課長　資料６、小金井市シティプロモーション基本方針（たたき台・修正版）につきまして御説明させていただきます。前回の委員会におきまして、基本方針のたたき台をお示ししまして、今回、御議論いただくということでございますので、皆さんの頭の中は修正前のものがベースになってしまっていると思いますが、事前にいただいた意見等を踏まえまして若干修正をいたしましたので、本日改めて配付をしております。本日はこちらをもとに御議論いただきたいと思います。

訂正箇所につきましては、黄色く着色した箇所になります。大きくは２点ございまして、１点目といたしまして、先ほど、委員長のほうからもお話しありましたけれども、シティプロモーションの定義が、あまり具体的に記していなくて曖昧なところがありましたので、１ページの１、シティプロモーションとはの（２）の中で定義を追記させていただいております。これに伴いまして、２ページの位置づけ等を示した図も改めております。

２点目といたしましては、市内へ向けた働きかけについての具体的な記述が欠けているといったような趣旨の御意見をいただきましたので、７ページから始まる４、推進体制の中の１０ページに（６）といたしまして、シビックプライドの重要性というものを加えております。これに伴いまして、８ページ、（４）市民との連携の中で、シビックプライドについて載せていたんですけれども、そちらの記述も今回改めております。

本文の修正点は以上でございますが、目次につきまして、これらに伴う修正と、資料編の中に（４）として、「観光大使の紹介」を追加しております。

まだ修正は行われていないんですけれども、先ほど、委員長からお話しいただきましたが、アンケート調査については現在同時進行で進めているということで、まだ集計中というところでございます。これまでの傾向からして、大筋は変わらないだろうという前提のもとで、既存のデータをもとにした記載になっております。こちらにつきましては、今後、アンケート結果の集計ができ次第、データを差し替えていこうと思います。

あと、改めて出たデータに基づきまして、小金井市のブランドメッセージというようなものも検討したいと思っています。こちらは、アンケートの集計が終わりましたら修正を行う予定でございます。

説明は以上でございます。

◎渡邊委員長　ありがとうございます。前回のたたき台に比べて、シティプロモーションとは何かということが明確に定義されて、大分わかりやすくなった。それから、その他、新たな章として、市民との連携のところもかなり充実した。それから、シビックプライドという概念、この重要性等がうたわれている。シティプロモーションを論ずる上での基本的なことがわかるんじゃないかなと思います。

じゃ、小金井市のほうで作っていただいた、これは松本さんですか。じゃ、松本委員のこれがあるから、これをベースにまず口火を切っていただきたい。

◎松本委員　わかりました。たたき台のたたき台として説明させていただきます。

シティプロモーションの定義がよくわからなかったので、まず概念整理をしてみようと思ってこの一枚紙を書いてみました。シティプロモーションと市の行政、あるいは市民とはどのように関係にあるのかを描いてみたのが一番上の図です。行政がやっている直接的な施策とか間接的な施策とかいろいろあるんでしょうけれども、そういうものを広報として受け止めて、いろんな形で内外に伝えていくという関連性でシティプロモーションの概念整理をしてみたんです。

それをベースに、どういうような手法、手当てをすればいいかを考えるのが中段の図、もうちょっと具体的に細かく落とし込んでいくのが下段の図、こういう枠取りで整理をしたらどうだろうなというふうに考えました。この一枚紙と、いただいた資料をつけ合わせると、不十分なところが目についたので、その点を意見提案シートのほうに書かせてもらっているということです。

今回配布された資料の修正版でも、２０代後半に的を絞ると書いてありますが、いろいろあってそこに絞るというならいいんでしょうけれども、最初からほかの要素を捨てるというのは、こういう施策を考える手法としてはあり得ない整理の仕方ではないか思います。

それから、今後の推進体制というところに、専門部署に期待する役割というようなことが書いてあるんですが、何で専門部署案が中途半端に出てくるのかというのが良く理解できません。本当は、専門部署案のところに書かれているようなことを検討して、それでできることできないことがあるだろうと、じゃあどうする、というところから議論が始まるのに、議論の入り口でもう終わっちゃっている。それがこのシティプロモーション基本方針の２つ目の問題点だなというふうに思います。これは一般的な意見で、あとは個別にいろいろと詰めていくんでしょうから、その段階でまた改めて意見を出させて頂きます。

◎渡邊委員長　ありがとうございました。松本さんのこれ、僕は見させていただいて、広報活動が核になっていくんですよね、これ。中心にあって、あっちこっちにやるようにして、連携してっていう。

◎松本委員　広報活動は、その必然性というのが、さっきいただいた河井さんのペーパーにも書いてありますけれども、メインは市民なんです。市民を中心に据えるということは、それを行政のカウンターパートとして考えていって、その上にシティプロモーション、あるいは広報があるでしょうから、そこの重要な点を忘れてしまってはほとんど意味がないというふうに思います。

だから、位置づけとしては、広報は二の次の問題であるべきなんです、本質的には。だから、前段をきちんと押さえなければ、幾ら広報をやったって、まず意味がないというのが私の率直な考えです。

◎渡邊委員長　このたたき台の、これが、市が中心になって、市民が周り入っているじゃないですか。

◎松本委員　そうですね。ちょっとその表はあんまりよく見ていませんけれども、河井さんの最初のところに、行政にとっての市民は、行政にとっての主人であり、顧客である存在は住民であると書いてあります。まずここがスタートだと思うんです。

◎渡邊委員長　整理ありがとうございました。僕もこれ見させていただいて、広報活動ってあるんですけれども、河井さんのやつに、傾聴する、市が市民の声を聞くという、２つの意味がある。１つは、アイデアを出してもらう意味で聞くというのと、それから、市でいろいろＰＲすることが、いいね、なのか、だめなのねという評価をもらうという意味で傾聴する、市民の声を聞くという。

◎松本委員　役所は一般的に広報広聴活動と言っています。それは基本の基本です。それは先生のおっしゃるとおり。

◎渡邊委員長　僕も、だからここに広報広聴って書いちゃったんですけれども。

◎松本委員　おっしゃるとおりです、それは、省略しています。

◎渡邊委員長　ありがとうございます。じゃ、市のほうでたたき台の修正版というのを出していただいたので、これとうまく絡みながら委員の皆さんで、先ほど言いましたように、小金井市をどうやったらＰＲできるか、どういう方向に持っていこうか、この辺を忌憚なく御意見いただきたいと思います。

◎小川委員　まだじっくりと読んでいないので何とも言えないところがあるんですけれども、以前もほかのところでこのシティプロモーションの話を耳にしたり目にしていたんですが、いろんな意味でＰＲ活動をして市民を増やしていくという考え方はよくわかるんですけれども、ずっと思っていたのは、若い人たち、市民に来てもらうという形でいうと、いろんなところで出ているんですが、少子高齢化といっていることは、子どもが少ない、人が少ないのをいかに連れてくるかということでアピール、ＰＲしていきましょうというところがすごく多いと思うんですけれども、私はいろんな論文を見ていて、逆に高齢者を、人数的に高齢者のほうが多いんだから、高齢者をいかに連れてくるかというところで人口増というのはあり得るんじゃないのかなというふうに思ったんです。

経済的なことで言うと、一般的には高齢者のほうが消費が、高齢者が来ると税金がっていう話があるんですけれども、高齢者のほうが転入してくる若い人たちよりも経済的には豊かな人たちが多い。そういう人たちを対象にした商売というか、経済活動というのは、逆に地域の税収を増やすことになるんではないのかなと思うんです。

１つの例を言えば、例えば８０代の人が１００人いる。その５０％が小金井市に来る。２０代の人が５０人いる。その５０％が小金井市に来るということを考えると、同じパーセントでも、高齢者のほうが多いんじゃないかなっていう、すごく単純な考えなんですけれども。

だから、先ほど２０代後半に絞るというような話が出ていたんですけれども、当局としては

どういうふうに考えているのかなと。私としては、総花的にあれもこれもっていうような案というのはいかがなものなのかなというのは常にありました。

さらに言うと、河井先生という方の中にも、子どもがいる共働きという、真ん中のページのところにあるんですけれども、これは多分、待機児童解消のものだと思うんです。本市でも、子ども・子育て協議会などで待機児童解消について検討しているところですけれども、待機児童を徹底的になくすというか、解消していくのであれば、もうここに重点を絞るというような、一点集中というような形も予算の使い方としてはあるのかなと。これは、当局としてもいろんな意味で難しいところはあろうかとは思うんですけれども、常に自分としては、何か進めていくときに、常に施策に対して賛成するのも市民、反対するのも市民というところのせめぎ合いなのかなというふうに感じているところです。感想です。

◎渡邊委員長　ありがとうございました。

鴨下委員、何か。シティプロモーション、アイデアでも、小金井の魅力でも、方法でも、何でも。

◎鴨下委員　この意見提案シートを書いたときとちょっと今違うというか、ああ、確かになって思ったことがあります。シビックプライドの重要性というところが、これを追求して、何が小金井の魅力なのかというのをもっと深掘りして、そこから明確に発信していくことが大事なのかなと思ったんです。それこそ、ターゲットが２０代だろうが高齢者であろうが、魅力が曖昧なままだと何をやってもうまくいかないんじゃないかなというふうに思ったんです。

あと、アンケートの結果で変わるページ、変わりますというところがあったと思うんですけれども、３の基本的な考え方の（２）、５ページですが、市民意向調査と学生のアンケートってあるんですけれども、これに回答してくれる人って、もともと小金井市に対して思いを持っている人、魅力をわかっている人、もしくはわかっていない人かもしれないですが、何かアピールしたい人だと思うんです。そういう人たちは、主体的に小金井市のことに参加してくれたり、考えてくれたりしてくれると思うんですけれども、そうではない普通の人たちに対して、受け身な市民に対して何を発信していったら刺さるのかというのを深掘りしていくのが大事なのかなというふうに今回、これを見て思いました。

◎渡邊委員長　ありがとうございました。僕も、このシビックプライドの重要性というところは非常に重要で、プライドを持てる魅力って小金井、何なのっていうことをもう少しちゃんと、我々が共通認識するし、対外的に見ても、小金井ってこんなに魅力あるんだということは共通に認識されることをきっちり顕在化する作業がまず必要かなという気がしたんです。

アンケートって大体中立的な答えしか出てこないので、ファッションデザイナーがいいファッションのデザインをするときには、より個性的だからいいのであって、アンケートをとってファッションをデザインしたら、ネズミ色のスーツになっちゃうと思うんです。だから、そういう意味ではいろんな意見をシャープに、こういうところで出していただけるのはいいのかなと。

今、シビックプライド、小金井の魅力って何ということに関して、僕、ちょっと調べてみたので紹介したいと思います。いろんな市が、何とかのまちっていうキーワードがあるんです。文学のまち、詩歌のまちとかですね。結構多かったのが、教育のまちなんですよ。教育のまち宇都宮、池田、日野、それから、神戸、横浜市、九州、備前、まだいっぱいあるんですけれども、何で小金井が教育のまちって言わないのかなっていう。大学が３つあって、専門学校があって、小金井市にはないけれども、亜細亜大とか東経大がすぐそこにある。まさに、そういう意味ではすごくいい環境にあるんです。これは、小金井市こそ教育のまちって言うべき場所だなというのが一つ、そういうのもあるかなと思いました。

前もちょっと話したことがあると思うんですけれども、小金井の子はできると。地域別に見たら、東大が一番いいとは思わないけれども、東大の進学率は小金井が断トツだったといったら、すごく魅力ですよね、小金井は。例えばですけれども。

だから、小金井って、よくよく考えてみると、この１ページ目の表の箱の中に、文化と教育というところで「学園都市」と書いているんですね。ワン・オブ・ゼムとなっていて、あまり目立たないというか、教育というのは一つあるかなという気がちょっと、今の鴨下さんの御意見を聞きながら思い出しました。

橋田委員、どうですか。

◎橋田委員　シティプロモーションと漠然と見たときに、１つに絞るのは本当に難しいと思うんですけれども、何となく教育ですとか、子育てとか、そういったところを中心に何かほかのもやっていきたいのかなというふうに受け取りました。

根本というか、細かな部分になるんですけれども、例えばツイッターとか結構身近なＳＮＳとして利用していまして、６ページのところの使い方みたいなのを見たときに、適宜、繰り返し発信で、イベントの開催、申込みなどの情報を発信って書いてあります。こういうのもあっていいと思うんですけれども、例えばもう一つ違うアカウントとかを作って、ツイッターで人気がある人、それをツイッターの情報で何月何日にどこでこういうイベントがありますっていう使い方もあるんですが、ツイッター上の情報自体が有益というか、書いてある内容自体にすごく価値があるみたいな人もいます。そうすると、例えば子育てとかの豆知識、例えば子どもが泣きやまないときにこういうことをすると泣きやみますよみたいなことをどんどん発信している人はかなりフォロワーがいたりとかして、そういうのを市で募集して、ほかの媒体でもいいですけれども、それをツイッターでちょっとずつ発信するですとか、１つだけじゃなくて、いろんな可能性で発信していったほうが、どれかが当たるじゃないですが、いろんな可能性を試していったほうがいいかなと思いました。

◎渡邊委員長　ありがとうございます。発信の方法について、何かほかに御意見ありませんか。１つの重要なシティプロモーションの柱になると思うので。

これは僕、ちょっとひらめいたんですけど、オウンドメディア、所有しているメディア、企業が、あるいは行政が皆さんに情報を発信するオウンドメディアと、アーンドメディアという

のは、ＳＮＳとかツイッターとか何かで個人個人が放送局になっていろんなことを言うメディア。それからペイドメディア、お金を払ってメディアを発信する。これは新聞とか、そういうものらしいんですけど、こういう考え方を、広報・発信の方法というのを、かなり今、急速に変化していますから、そういうことも考えていったほうがいいのかなという気がしました。

鴨下さんのほうでもいろいろ発信の方法についてあるんじゃないかと。何かうまい案、ありませんか。特に若い方。

◎鴨下委員　いや、もうそんなに若くないです。今、橋田委員のを聞いていて、ツイッターでもまだまだ可能性はあると思いますし、ふと頭をよぎったのは、こきんちゃんがゆるキャラ的な感じですごくくだらない、ちょっとくすっと笑っちゃうようなアカウントを持っていて、ツイッターをしていくとかがあったらおもしろいかなと個人的に思ったりはしたんですけど、どんどんＳＮＳも変化していっているじゃないですか。だから、ずっとツイッターでいいわけないのかなとも思ったり、結構インスタのほうが主になっていたりするので。ここには私、フェイスブックと書いちゃったんですけれども、だんだんフェイスブックも下下がりだと思っているので、臨機応変に、アーンドメディアでしたっけ。

◎渡邊委員長　そうです。

◎鴨下委員　を使い分けていく必要があるのかなと思いました。

◎渡邊委員長　若い人はメールはだめなんだよね。ＬＩＮＥじゃないと。

◎鴨下委員　ですよね。ＬＩＮＥですよね。

◎渡邊委員長　メールはほとんど読まないという。沼崎さん、どうですか。

◎沼崎委員　ほんとにおっしゃるとおりで、フェイスブックにしてもツイッターにしてもＬＩＮＥにしても、今は使っている人が多いかもしれないが、例えば１０年後を想像したとき、おそらく変わっていると思います。そうなってくると、情報発信に長けた柔軟な発想を持っている人たちと市としてうまくつながっておくという、そういうつながりはすごく大事かと思います。今からでもそのような人たちと接点を持って、継続的に最新の情報発信の手段というものを市として捉えていくというのはやっぱり大事な考え方かなとは当然思います。

あと、大枠で考えると同じかもしれないが、交流人口の増加、定住促進、シビックプライドの醸成についてもフェーズは全然違うわけであり、一般論で示すのではなく、それぞれの目的に合わせて、ターゲット、発信内容、発信方法等を検討していかないと、シティプロモーションというのはうまくいかないのかなと思います。

◎渡邊委員長　多分、発信の方法、情報の扱いというのはすごくドラスチックに変化していくと思うんですね。それは行政でやり切れるかなというのもあったりして、この辺は行政と協力団体をつくってやってもらうとかということを特記したほうがいいのかもしれないという感じが僕もしました。情報発信以外でも小宮委員、何か御意見あればお願いします。

◎小宮委員　多分これ、さっき言ったシビックプライドということが、私の意見として小金井で生まれて小金井で育つと、小金井が絶対好きになると私は思っていて、私、府中市民なんで

すけど、お隣で申し訳ないんですけど、府中はお祭りの非常に盛んな町で、私の小学校の先輩とかも青年会みたいなのに入っていて、そういう子たちがそういうお祭りを支えていたりという愛着というのか、プライドを持ってそういうことをやって、町のために何かしようとか、結構青年会の子たちはその周辺のお掃除をしたりとか、そういうことはやっぱり今、多分、希薄になってきているところがある中で、そういうことをやっている方々もいるので、そういうところの部分でつながりを持って、そういう子たちがずっと小金井にいたいよねと思うような考え方を持って何かを考えるというのも１つの案なのかななんて思って、外からとってこようみたいなものも必要かと思うんですけれども、やっぱり守っていくところは守っていかなくちゃいけないと思うので、そこの部分、外に出ていかないというところも少し基本的な考え方として持っていたほうが私はいいのではないかと思って、御意見として出させていただきました。

あとはやっぱり他市でどうやっているのかというのもしっかり学んでいくというのか、見ていくというのが重要なのかなと思っていますし、３市で合同で何かをやるなんていうこともあるので、そういうところでうまく、ある意味では敵同士かもしれないですけれども、連携するところは連携するというところが書いてありますので、そういう部分では、情報交換であったりとか、つながりを持ってこのシティプロモーションをもうちょっと大きいシティプロモーションにしていってもいいのかなと。小金井という単独の部分もありますけれども、地域で考えれば、隣の市も同じなので、もう少し大きなくくりとして、何か共通すべきいいところは共有し合うみたいなのもいいのかななんていう、ちょっとご意見ですけど。

◎渡邊委員長　シビックプライドの１つとして、昔からある小金井の祭りとかいうのを、より重要じゃないかとかいうことですね。そういうことをもう少しクローズアップしたり、守り、発展させるということも必要かなという御意見ですかね。

◎小宮委員　そうですね。そういうところで守っていくというのも１つあるのかなと。

◎渡邊委員長　ありがとうございました。天野委員、どうですか。

◎天野委員　皆さん、いろいろ御意見いただきまして、ありがとうございます。ちょっと追い切れない部分があるんですけど、まず、シビックプライドという話が出ました。シティプロモーションの役割というか、説明としては、まず市内に向けての発信と外に向けての発信という２通りがあると思っていて、内への発信というところでは、市内に向けて行政だけではなくて、企業や学校、いろんな団体を含む市民に対して発信して、やっぱり小金井はいいよねという醸成、それから一歩先に進むと、小金井をみんなで応援したいよねとか、宣伝したいよねなどの小金井を応援してくれるサポーターを増やしていくようなものだと思っています。

つまり小金井に対する愛着や誇り、シティプライド、小金井プライドを醸成していくことをまずやっていくことが必要だと私も考えていて、そのことによって、一層小金井を好きになってもらって町が元気になっていく、そういうのがまずシティプロモーションとして必要なことだと思います。そのうちに発信から外に向けて交流人口を増やしていって、町を活性化していくという２段階のやり方があるのかなと思っています。

なので、シビックプライド、市の魅力、財産を深掘りしていくということをまたもっと皆さんから御意見をいただきたいと思います。

うちの市長なんかもよく言うんですけど、あるもの探しとか、あるもの磨き、今ある小金井市の財産というものをもう一度見つめ直す。常にそれに接していると、なかなかそれに気がつかないとか、忘れてしまうとかいうことを言われているんですけど、そういったものをもう一度探し出して、みんなで認めていって発信していくということかなと思っています。

それから宣伝の仕方なんですけれども、小金井の宣伝は下手だということはよく言われているんですけれども、その中で小金井市ではなくて、地方のある町で、前、テレビで見たんですけれども、地域の特産品をユーチューバーというんですか、ＳＮＳで有名な方に特産品を送って、それをその有名な方に発信してもらうということをやっている町があるそうです。

ただ、小金井でそれができるかどうかというのは別なんですけれども、おっしゃっていたのは、そういう発信が上手な方、うまい方とつながるということなんでしょうか。そうしていくと、うまく小金井を応援してくれる人、宣伝してくれる人を増やすというシティプロモーションのやり方、そこに何か活路があるのかなと聞いていました。

そうすると、日本中にどこに小金井市を応援してくれる人がいるかわからないわけですから、そういった人を何かターゲットを決めてではないですけど、応援してみたりだとか、あと委員長がおっしゃっていた、やはり行政だと限界があるので、当然、観光協会とかが出てくるんですけれども、そういった割方縛られない団体に行政ではできないような発信を、さらに連携をとって、こういったシティプロモーションの方針に沿ったような形で連携して発信していくということはやっぱり大事なんだろうなと聞かせていただきました。

◎渡邊委員長　ありがとうございます。松本委員、今までの話を聞いて、何かコメントございますか。

◎松本委員　小金井がいいねということに関していいですか。いいねというのはいろいろあって、今回はアンケートで何かいいものがあったら出してくれというのが入っていたんですけど、私自身は小金井は大変いい町で大好きな、中央線の電車に乗っていて小金井という字が見えるだけでうれしくなるぐらい、今、小金井市にどっぷり浸っているところです。

そういういいところはいいなと思っているんですけど、まだいろいろあるはずなんですね。同時にあんまりよくないところというのもあるはずだと思うので、それを相対化するために、コメントでも書いたんですけど、小金井市と同じ人口規模、１２万プラスマイナス何割かの町とか市、海外も含めてですが、そういうところを紹介して相対化してみるというのもありかなと思います。

僕らがいいね、いいねと言っても、それが何なのということもあるでしょうし、無視しているものもよそから見ると非常にいいなという、日本ブームですね、外国人から見て、あるでしょうから、そういう意味で相対化していって、それでほんとうにいいねマークがつくものがあれば、それは大変いいことだと思うんですけれども、１人よがりでいいねと言っていてもしよ

うがないので、１回相対化するのが必要ではないのかなという気持ちはします。

私自身はさっきの概念図でも言いましたように、２段階、３段階に分けて考えていまして、やっぱり今、市としてどうするかというところで多分打ち出されてきていると思うので、先に市の行政ありきだと思うんですね。だから、そこをしっかりと打ち出していくというのがまず第１歩。

それを踏まえて、第２段として、広報、広聴ということなんでしょうけど、いろんな媒体を通じて、あるいは人を通じてどういうふうにやっていくのかというのをもうちょっといろいろと深掘りをしていく、範囲を広げて同時に深掘りしていくという両方が必要だと思うんですけど、それをやるというのが第２段。

第３段がここに書かれている専門部署というところで、本当はここから掘り下げていけば、いいものが出てくると思うんですね。今でも攻めの広報という言葉があるのかどうか知りませんけれども、あるものを伝えるだけでは、それはいつか廃れていくような話ですから、将来性、発展性はなくて、それで終わりです。行政とか市民との関係でこういうものが要るだろう、それをどうするんだというのをせめて引っ張り出すという広報姿勢というんでしょうか、それがぜひ必要なので、それをやるところをつくっていくのが第３段かなと思いながら聞いていました。

もう一点、今の話とは別の話になりますが、小川委員が老人をたくさん呼べば経済が潤うよとおっしゃるのはやや疑問ですね。僕も今老人の部類に入っていますが、老人がそんなに経済的に足しになるのかなと。この図表を見ると、転入・転出は微々たるものですから安定していますよね。ここに７０代、８０代の老人を持ってきて、果たして定住してくれるかどうか。定住したら、今度は病院頼みみたいなものですから、そこの面倒をどういうふうに見るんだと。

それから、年をとるとあんまり物を買わなくなるんですね。僕なんかは大体物持ちがいいほうで、このＹシャツだって何年も着ていて平気ですし、経済にどのぐらい貢献できるのか、お金使わないんだけどな、税金も払わないし、老人を頼りにされちゃうと老人としてつらいな、肩身が狭いなと思っちゃう。

◎小川副委員長　ある種の私は発想の転換というのが必要じゃないのかなというところはあるんですね。例えばこの案でも平成７２年までのところを考えてと言うんですね。そうすると、人口比率から言ってくると、７２年のとき、どういう人口比率になっているかというと、かなりこちらにシフトしているはずというか、それはもうわかっているわけですよね。２０代の人口比率のことを考えると、かなりきつくなってくるんだろうなということを思うと、高齢者という言葉がどこまでを考えていくか、私も６６ですからもう高齢者なんですけれども、人口のことを考えると、若者だけに絞るということはかなりきつくなってくるんだろうなというのは感じるんですけれども。

◎松本委員　それはそうだと思います。

◎小川副委員長　あと、私も物を買わなくなったのも事実なんですね。でも、逆に、あるとこ

ろなんかは高齢者のマンションというんですか、高齢者専用のマンションみたいなものをつくったらば、そこの町は経済的にかなり豊かになったという事実もあるんですね。はっきり言って、そういうところに入れる方はそれなりの経済力がある方たちが来るので、それで、そこには高齢者の方たちが欲しいものがある、そういうものを用意しているお店が増えたので、そこの町の経済はかなり変化が起きたという事実もあるので、ですから、ターゲットを若者だけに絞るというところは何か課題があるんじゃないのかなというのがあるんですね。経済のことに関しても、お金を持っている方が使いたくなるようなものがその町にあれば、かなり違うのかなという気がするんですけど、どうなんでしょうね。

◎松本委員　これ、広報のターゲットを２０代後半に絞ると言っているので、行政をどうするかというところまで書いてないというか、考えられてないんですよね。別次元の問題として捉えているので何とも言えないんですけれども。

◎渡邊委員長　小川副委員長、私、委員の１人として発言したいんですが。余計なことを言ったら済みません。

僕、地域の魅力というのは何ではかるかといったときに、ふるさと納税かなと実は思っているんです。東京都にいると、ふるさと納税というのは東京から地方に行くものでしょうとみんな思っていると思うんですけれども、そんなことは全然ないんですよね。誰が小金井市に、あれはもともと税金じゃなくて寄附ですからね。寄附したいと思う魅力が小金井にあるかどうかということだと思うんですね。

実はこれ、カシミアの結構高いセーター、ふるさと納税で返礼品でもらった、結構寄附しないと来ない品でしたけど、なんです。本社は青山にあるんですけれども、工場が私の郷里の岩手にあるということで。そう考えたときに、ふるさと納税、小金井市に寄附したいというのはほんとに何かと考えると、そこのところで小金井の魅力というのがすごく顕在化するんじゃないかなと実は思ったんですね。

先ほど､連携の話で三鷹市と武蔵野市と連携して小平市は入らないのかと僕が言った理由は、小金井カントリークラブでプレーをできますという返礼品で、もし小金井がふるさと納税を集めたとすれば、小金井カントリーで一生に１回やりたいという人は結構いるんです、あちこちに。僕も学会で１回借りたことがあって、それは学会にいる人たちは、小金井カントリーで一生に１回でいいからプレーしたいという、それをかなえるためにやったんですけれども。

◎小川副委員長　小金井カントリーは小平市ですか。

◎渡邊委員長　ええ。あれは小平市なんですよね。

◎小川副委員長　ああ。じゃ、税金は小平市に入っているんですか。

◎渡邊委員長　ええ。

◎小川副委員長　そうですか。

◎渡邊委員長　でも、小平市と小金井市が連携して、小金井カントリーになっているんですから、例えば１つの例ですけれども、おとといの新聞で、長野県が６市町で自分の町だけでは魅

力をどうしてもつくれないから、６つの市で連携して、体験型のイベントに参加すると。大豆を収穫してというのに参加して、その大豆で手前味噌をつくるという。それは２万円とか１万円寄附をすると何か来るんだという。それは味噌というものが来ますけれども、肝心なことはやっぱりイベントに参加するということだと思うんですね。

地方の方はわりあい東京にやっぱり出てきたいんですよ。私、岩手の出身ですけれども、ふるさと会というのを向こうでつくっていて、ふるさと会を開くと、田舎の議員さん方、みんな遠出して出てくるんです。議員のお金使って、本人のお金かどうか知りませんけれども、とにかく東京に出てくる機会をつくりたいというのがあるんですね。

だから、実は小金井市は東京、首都圏にあって、すごく魅力的な場所ですよね。例えばイベントの別の例として、３つの大学があるわけだから、３つの大学のおもしろい講演をしてもらって、それに参加できるという返礼もありますよということだってできるし、別に立派な牛肉を返礼品にする必要は全然ないんですね。

僕は調布市民ですけど、小金井市に住んでいても小金井市に寄附できるんですよね。僕は今、調布に住んでいるから、一度、小金井市にふるさと納税をやったんですよ。こきんちゃんをもらいましたけど、うれしいんだかうれしくないんだか。まあ、でも、それは思いだし、いいかなという感じで、だからやっぱり僕は小金井は財政難だと言うんだったら、１０億くらい集めるぐらいのふるさと納税をつくりなさいよと。そうしたらしゃにむに小金井の魅力を考えざるを得ないでしょうというのは１つ、非常にラジカルな発言ですけれども、委員の１人として発言しました。

◎小川副委員長　ありがとうございました。

◎渡邊委員長　だけれども、ほんとに小金井市で小金井カントリーのでプレー権を差し上げます、そのかわりふるさと納税を１５万してくださいと言ったら絶対集まると思います。小金井カントリーだってお客さんが来なくて困っているんですから、向こうも助かるわけだし、ついでに小金井で工場にあるようかんをつけたっていいわけですので、方法論としては、小金井市がもしふるさと納税企画をやるんだったら、小金井市としてどういう返礼ができるかということを考えると、必然的に小金井の魅力というのを掘り当てるということになるのかなということでございます。

◎小川副委員長　ありがとうございます。今、ほんとに感じたんですけれども、この委員会で今までの発想とは違う発想の転換とか、それから新たな視点がいろいろ出てきて、これが市当局のほうへ話が伝わっていけば、今までの形とは違うものができてくるのかなと感じたので、なかなかいい会だなと自画自賛しました。

◎渡邊委員長　もう一つ発言したいんですけど。

◎小川副委員長　お願いいたします。

◎渡邊委員長　やっぱりシティプロモーションは市民と市民に限らず、市の大学であるとか、商工会とか、いろんなところとの共同でやるのが一番いいと思っています。それはシティプロ

モーションのプロジェクトをつくる段階から共同すると。もちろんシティプロモーションで走り出した段階で市と一緒に共同するというのがいいんじゃないかなと実は思っています。先ほど、これから通信媒体というのはどんどん変化していくと。そのときに市の役所の方が専門的にそれをやれるという方はなかなか割けないだろうと思うんです。そうしたら、そういうことにたけたどこかの団体と共同してやればいいわけですよね。

それから、小金井市には３つの大学が所在していて、しかも小金井市とお互いに協力しましょうという協定を結んでいるんですよ。であるとすれば、大学の先生方とか学生さんとか、いろんなところの知識を集めて、小金井の魅力を掘り起こすということから始まって、今ある魅力と合わせて、それをどうやって発信したらいいかということを一緒に考えるということができると思うんです。

もちろん既存の小金井市の団体がありますから、そことも協力して、その団体自身のＰＲにもなるんだからということで、シティプロモーションの企画当初の段階から、小金井市が全部やるんじゃなくて、市民を全部巻き込んだ格好でやるというのが重要かなと。自分が参加すると、それが走り出したときにやっぱりやりたくなるじゃないですか、そこで実際。それもやっていくんだということでやるのがいいかなと。

先ほど広報という言葉、ちょっと言い方があって、広報・公聴、やっぱり市民の声を聴くとか、アイデアを聴くとか、我々のプロジェクトの評価について市民の声を聴く。聴くということがすごく重要かなという気がします。この資料の中でも傾聴、耳を傾けるということが重要ですよということをうたっていましたけれども、そんなふうに思いました。

◎小川副委員長　ありがとうございました。今、委員長からもお話のあった協働ということでは、小金井にはかなりすばらしい実践例があるなと。それは何かというと、科学の祭典というのがあります。これは、市内の大学とか小学校とか企業とかが参加してやっているんですけれども、たしかこの科学の祭典を一番最初に学芸大学で行ったときには、本当に３日間で１，０００人来るか来ないかの集まりだったと思います。それが、いろんな形で連携を図るようになって、たしか昨年度のときにはもう１万を超えているんです。ということなど、この辺は天野委員もかかわったところですよね。

◎天野委員　はい。

◎小川副委員長　なので、本当にそのかかわり方で随分変わってくるなというのは感じているので、協働でやっていくというところはすごい大事だなと感じております。

◎渡邊委員長　ありがとうございました。その他、このたたき台を配っていただきましたので、たたき台のことについても、ここのところはどうなんですかとか、こうしたほうがいいんじゃないですかとか、ちょっと意見があれば伺いたいんですけれども、いかがでしょうか。

小金井の本当の魅力って何ですかね。緑豊かとか、桜とかって言うけれども、人情はないんですか。

◎小宮委員　人情というか、そういうつながりは絶対どこの地域にもあるのかなと。

◎渡邊委員長　さっき言われた祭りですけどね。

◎小宮委員　祭りもそうだし。子どもがやっぱりボランティアとかにもそうやって積極的に参加するということは、子育てにもいいというお話にもなってくると思うので、何かそういう考え方もいいのかなと思いますし、せっかく協力校とか作っているんだったら、子どもに「小金井ってどんなイメージなの」って聞いてみるのもおもしろいのかなと委員長と副委員長のお話を聞いていてふと思って。

いろいろ傾聴するとなってくると、別に大人だけの意見じゃなくて、多分その子どもたちがずっと住み続ける場ということはないという考え方からいろいろ聞いてみるというのもおもしろいのかなと。子どもの意見は多分突拍子もないものがいろいろ出てくるのかな、逆に子どものほうが。大人だといろんな知識が入ってしまっているので、凝り固まった意見が多く出たりとかするんだと思うんですけど、子どもだったらじゃあ何がいいのか。例えば、先ほど委員長が言ったふるさと納税で小金井市がこういうことをやってくれたら僕も納税するみたいな、そういう意見も。「どうしたらふるさと納税しますか」なんて聞いてみるのもいいのかなと。子どもだったら、じゃあ宇宙旅行に行けるんだったら納税するよとか、いろいろな発想が出てくるのかなと思って。そういうので小金井市としての魅力を発信していくというのが、子どもが元気な町が発展するんですという宮崎駿さんの発言もあったりとかすると思うので、子どもをもうちょっと巻き込んでもいいのかなと。

やっぱり７０年後の未来を考えているんだったら、今、我々が議論するだけじゃなくて、将来を持っている子たちの考えも必要になってくるんじゃないかなと。そういうのでアンケートももっと幅広くやっていただけると、我々の感性に触れられるような意見が出てきたりとかするのかなと思うんです。

◎沼崎委員　今、まさに八王子市がシティプロモーションをたしか作っていて、まず八王子のブランドメッセージを作るということをやっていました。市民の方、事業を営んでいる方、大学生を２０人ぐらい集めて４つぐらいのグループに分けて､それぞれに市の職員の方が入って、４回シリーズぐらいでアイデアを出し合って最後発表するというやり方だったと思います。たしかちょうど終わったぐらいだと思います。小金井市ではスケジュールは大体決まってしまっていると思うんですが、もし参考になるようだったら、同様にワークショップのようなことをされてみても、いろんな意見が出てきて参考になるのかもしれません。

◎渡邊委員長　ありがとうございます。今ちょっと読ませていただいた５ページのところ、これはアンケートがこれから出るからまた変わるだろうと思うんですけど、小金井の魅力、アンケート結果によると、今までのところでやると、「買物などの日常生活が便利である」と、「みどり・水辺などの自然環境がよい」が多く挙げられたと書いてあるんですけど、何か本音のところで違うところがあるんじゃないのという、何となくみんながそう言っているからそう言っているという印象が正直あるんです。「みどり・水辺などの自然環境がよい」って言っていますけれども、多分、調布とか府中のほうがもっと緑は多いし、水辺が近いですよね。

◎小川副委員長　そうですね、公園も大きいのも府中はありますし、施設も。

◎渡邊委員長　小金井がみどり・水辺ということを言っているから何となくみんなそうなっているのであって、本当のところで、もっと違うところで強力な、先ほどの祭りのような、魂揺さぶるような何か魅力というものが小金井にあるかもしれないですよね。そういうのを掘り起こしたいといったらいいんですかね。でも、アンケートでいくとこういう答えしか多分出てこないんだと思うんです。

◎小川副委員長　ですから、先ほど小宮委員がおっしゃった、子どもに聞いてみるなんていうのも、まさに新しい発想として出てくるのかなという気はします。ここに出ているみどりと水、公園が多いというのは、本当に私たちがずっとすり込まれていたことのような気がするので。

実際に、子どもの発想っておもしろいなと思うんですけれども、この間、学習発表会というので子どもが工作を作っていたんです。自動車の工作であって、３年生だったんですけれども、「これ、すごくいい自動車作ったんだ」って、「ものすごいスピードが出る自動車なんだ」って言うから、「何とかさん、すごいの作ったね。じゃあ、この自動車はものすごい、考えられないようなエンジンがついているんだね」って言ったら、「いや、違うよ」って言うんです。私は、すごいスピードが出るって言うからエンジンだとばかり思っていたら、「ものすごいいいブレーキを僕が発明した自動車なんだ」って、「時速２００キロで走ってもキュッと１センチでとまるんだ」って、だからスピードが出せるという子どもの発想だったんです。

だから本当に、先ほど突拍子もないっておっしゃっていたけれども、突拍子もないところから新しいものが生まれてくるのかなという気がしたんです。子どもにアンケートってそういうところもあるのかなと思ったので。

◎渡邊委員長　これ以上何分やっていいか気になるんですけれども、多分、進め方とか、ここだけではアイデアは出ないわけであって、むしろ逆に、ワールド・カフェか何か市民を集めて、あるいは子どもたちを集めて何かやると、本当にいろんな意見が続々と出てくるかもしれないし、子どもが出した意見が結構そうだとすると、結構子どもも小金井にシビックプライドを持つようになるかもしれないですし、そういうことも非常に重要かなという気がします。

◎松本委員　担当の方が見えているので，この際、一緒に同じ場で議論に入ってもらったほうがいいんじゃないですか。こっちに座ってもらって意見交換したほうがいいんじゃないですか。

◎渡邊委員長　そうですね。

（広報秘書課長、委員席へ移動）

◎天野広報秘書課長　今いろいろ御意見いただいたところではあるんですけれども、十分には触れ切れていないのかもしれないんですが、例えば、学校との連携ですとか、ツイッターの仕方なんていうのも御意見をいただいたところなんですが、その辺も、実は若干触れておるのが８ページの、例えば関係団体との連携の中で、今、学生アンケートをとっているんですけれども、その中で、ツイッターの発信方法についても、どんな発信の仕方だったら見てくれるかとか、そういった質問も投げかけているところです。大学等との連携をすることによって、若年

層が魅力に感じていることとか、先ほど発信方法が長けている方の意見を聞くのに有効なんじゃないかなという御意見も出ていましたけれども、その辺も踏まえて、より伝わりやすい発信方法を知る上でも、学校との連携は大事じゃないかみたいなことを書いているところであります。なので、今回いただいた意見をまた踏まえて、今後さらに修正をかけていきたいと思っています。

あと、市民の意見を聞くという点では、市民と市長の座談会というのを年に４回開催しておりまして、それが５月に２回、１１月に２回やっているんですけれども、１１月の回のほうで「市の魅力について」というテーマで、市の魅力は何なのかという意見と、もう一つは、それを発信する方法について、ちょっと御意見をもらおうかと思っています。ただ、そこは発信に長けた方がファシリテーターなんていう御意見がありましたけど、そういうところは用意していなくて、事務局で運営するのでそこはどこまでうまく活用できるかというところはあるんですけれども、そんなことも考えております。

それから、子どもの意見というのもおもしろいなと思いました。実は、私もこれは思ったことがあったので、毎年、市の広報秘書課のほうで、市報の１月号に載せる作文を募集しているんですけれども、その中で、過去に、平成２８年度に市の魅力をＰＲするための簡単なリーフレットを作ったことがありまして、その参考にするためということで、子どもたちに小金井の魅力は何ですかみたいな、いいと思うところというようなテーマで作文を募集したことがあります。今、手元にそのデータはないんですけれども、そういったものもちょっと振り返ってみて参考にできればなと思います。

あとは、今年６０周年記念ということで、市をＰＲする動画を作ったりしています。こちらも大学等の学校との連携というのを活用しまして、東京工学院という専門学校があるんですけれども、そこの放送芸術科の方々に、もう企画段階から全部お任せして作っていただいたビデオ、これはホームページで検索すればすぐ出てきますので、ぜひ見ていただきたいなと思うんですけれども、そういったものも今後活用しつつ、その中で、先ほど意見で出されていた昔からあるものを守って発展させていくなんていうお話がありましたけれども、そういったことにも近いような、文化財を大事にしていこうみたいな、３本のドラマなんですけれども、そのうちの一つはそんなものも取り上げたりしていて、そういうのが地域の方に響いてくれればいいなと思っているところです。

今後のスケジュールとして、この場で議論いただくのは今回が最後になってしまうんですけれども、最終的にはでき上がったものをパブリックコメントにかけることも考えておりますので、皆さんの意見も踏まえた形で最終的な素案を作りまして、それをパブリックコメントにかけた際に、また改めて何か御意見をいただければ、そこで市民の立場からお寄せいただいてもいいのかなと思っているところです。

◎渡邊委員長　ありがとうございました。何かこの河井先生の論文、いろんな種類を読んで、１回この方を市のほうに呼んで、勉強会なんかをしてもいいのかなと正直思いました。いろん

な地域におけるシティプロモーションについて体験されている方ですし、ここには概要しか書いてないんですけれども、都市政策研究交流会でパワーポイントでかなり細かいところまで事例が書いてありましたので、我々素人ですので、プロの御意見を聞く機会を１回作ってもいいのかなというのを、正直読んでいて思いました。私は勉強してしゃべっている、向こうはもう教えられるんですよね。ぜひそういうこともあっていいかなという印象を持ちました。

じゃあ、どうでしょう。今日出たような意見を踏まえてもらって、あとは、できれば協働みたいな格好で、市民とか関係者と一緒に作り上げていくようなことを考えていただければ、そこの中でまたいろんな意見を伺えると思うので考えていただければいいかなと思います。

もう少ししゃべりたいと思うんですけれども、何かまた市が企画するこういう懇談会みたいなものがあるんですか。

◎天野広報秘書課長　１１月に、先ほどお話しした座談会というのを。どなたでも参加できる形になりますので、お時間あってまださらに御意見言い足りないという方がいらっしゃいましたらぜひ来ていただければと。１回目が、１１月１５日、平日になるんですけれども、夜７時から上水会館というところで予定しております。もう一回のほうが、１１月２４日、こちらは土曜日になります。午後２時から萌え木ホール、向こうのすぐ正面の商工会館の３階になるんですけれども、そちらでやりますので、ぜひお時間のある方はお越しください。

◎渡邊委員長　ありがとうございました。一応、このシティプロモーションの基本方針のたたき台というのをこれで終わりにして、次の議題に移りたいと思います。なお、今紹介された座談会等、あるいは御意見があれば委員として出していただいて、今日どうしても話し切れなかったこととかいろいろあろうかと思いますので。そういうことで、一応ここは締めたいと思います。

◎渡邊委員長　それで、次の議題ですけれども、今後の予定についてに入ります。何かあればお願いします。

◎古賀企画政策係長　それでは、今後の予定について説明をさせていただきます。資料５を御覧ください。

１、本市における計画につきましては、今年度第１回の委員会の中で説明したとおり、第４次基本構想・後期基本計画が平成２８年度から平成３２年度までの５か年計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略が平成２７年度から平成３１年度までの５か年計画となっておりますが、まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間を１年延伸した上で、平成３３年度からの計画として、２つの計画を１つにまとめたいと考えております。

２、各計画における会議体については、第４次基本構想・後期基本計画の次期計画に当たる第５次基本構想・前期基本計画が長期計画審議会、まち・ひと・しごと創生総合戦略がまち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会となっておりますが、長期計画審議会につきましては、平成３１年度に設置予定となっておりまして、現時点では存在しておりません。

そこで、３、今後の予定になりますが、後半の３回の委員会をまち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会から、今後設置予定の長期計画審議会へ計画の統合に向けた意見書の作成をお願いしたく、そのための協議に充てていただきたいと考えております。

なお、具体的な内容につきましては、裏面の４、開催スケジュールを御覧いただきたいと思います。

◎渡邊委員長　長期計画審議会というのが立ち上がると思うんですけれども、立ち上がる前の段階で、今まで我々、まち・ひと・しごとということでいろいろ考えてきたので、こういう視点で考えてくださいとか、こういうアイデアありますとか、いろんなことを意見というんですか、出すという格好が我々のミッションになるということですね。

◎古賀企画政策係長　そうです。

◎渡邊委員長　ということで、また性格がちょっと変わりますので、よろしくお願いしたいと思います。よろしゅうございますか。

今まで結構、まち・ひと・しごとというたがが外れて、このたがの内部では議論しにくいなということもあったかと思うので、例えば、小金井市の財政どうするんだとかという問題も含めて、そういうことも考えて、むしろ意見を出せるんじゃないかなという気がしております。それでいいですか。

◎古賀企画政策係長　はい。

◎渡邊委員長　何か御意見ありますか。

◎梅原企画政策課長　委員長、１点だけよろしいですか。

◎渡邊委員長　はい。

◎梅原企画政策課長　それで、残り３回のスケジュールにつきましてはお配りしているとおりなんですけれども、次回の１１月ごろ開催します第４回につきましては、いつものこの形式ではなくて、いろいろとたくさんの意見をいただきたいので、ワークショップの形式で行わせていただきたいというふうに考えております。もう少し詳しい内容については、また次回が始まる前に通知をさせていただきますので、そちらのほうも御覧いただきたいと思います。よろしくお願いします。

◎渡邊委員長　ワークショップに参加するときに、我々があらかじめ準備しておくことは何かあるんですか。

◎梅原企画政策課長　その辺は、一応テーマとしては未来の小金井市の目指すべきまちのイメージということなんですけれども、もう少し詳しい内容を事前にお知らせさせていただきます。

◎渡邊委員長　わかりました。じゃあ、次回は１１月ですけれども、ワークショップという形式で、未来の小金井市の目指すべきまちのイメージをどう発想しますかということを、ワークショップ形式ですから、言いたいことを言うという格好でやらせていただきたいと思います。

◎渡邊委員長　それでは、その次回の日程について、ちょっと皆さんにお諮りしたいと思いま

す。これは会議ではないので、一応休みとして、次回、いつがいいかということでございます。スケジュール表を開いていただいて。全く白紙だと考えにくいので、市のほうでこれぐらいがいいというのはないんですか。

◎古賀企画政策係長　次回の日程でございますが、候補日としまして３日ほどこちらのほうで御提案をさせていただければと思います。１１月１５日木曜日、１１月１６日金曜日、１１月２０日火曜日の３日間を候補として挙げさせていただきたいと思います。

◎渡邊委員長　ありがとうございました。日程調整のため休憩に入ります。

（休憩）

◎渡邊委員長　それでは、再開します。次回は１１月２０日（火）午後６時３０分から、場所はまた追って事務局のほうからお知らせします。

今日、市役所のほうで準備をしていただいた議題が以上でございます。最後に、何か御発言があればお願いしたいんですけれども、よろしゅうございますか。終わりにしていいですか。

（「はい」の声あり）

◎渡邊委員長　じゃあ、これをもってまち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会を終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

（午後８時１５分閉会）